

# 福島明成高等学校生徒との座談会

## 主催：(一社)福島県建設業協会

福島県建設業協会では、建設関係学科に進学した生徒を対象に、将来の建設業界への就職に備え、進路希望者の不安解消や理解の増進を図ることにより、雇用のミスマッチの解消や建設業への進路選択者を増加させることを目的に、生徒との座談会を開催しております。

福島明成高等学校では、環境土木科2年生と座談会を行い、座学としてICT活用の現状と課題や新社会人に求められる資質などを学びました。また、地元建設企業等の方をアドバイザーとして招き、建設業の仕事のやりがいや魅力などを講話いただき、生徒が抱える建設業への就職に対する不安や疑問について意見交換を行いました。

- <日 時> 令和8年2月6日(金) 13:25~15:15
- <場 所> 福島県立福島明成高等学校 視聴覚室(福島市永井川)
- <対象学年> 環境土木科 2年生 16名
- <コーディネーター> 環境土木科 ご担当教諭3名
- <アドバイザー> 地元建設企業2社(佐藤工業(株)、(株)日新土建)、福島県土木部建設産業室(一社)福島県建設業協会

### 座学1「建設業の役割等について」

講師：福島県土木部建設産業室 主査 伊藤経介さん



建設業の役割について  
福島県立福島明成高等学校  
令和8年2月6日(金)  
福島県土木部建設産業室

1. 建設業とは?  
建設業では「つくる! 直す! 管理する!」をしています。  
地中地盤などを「つくる!」、建物や道路などを「直す!」、建物や道路などを「管理する!」  
建設現場でのICT活用  
建設現場でのICT活用  
建設現場でのICT活用

4. 最新技術の活用  
建設分野のDXの取組 (i-Construction)  
i-Constructionとは、建設現場におけるICTの活用を指します。  
建設現場でのICT活用  
建設現場でのICT活用

5. 働き方改革  
働き方改革について  
働き方改革について

### 座学2「建設業への就職に向けて」

① ICT活用の現状と課題、今後の展望 … 講師：佐藤工業(株) 土木本部土木部課長 浦山和也さん



ICT活用の現状と課題、今後の展望 (ICT技術者)  
発表者 佐藤工業(株) 浦山 和也

建設業の現状と課題  
建設業の現状と課題  
建設業の現状と課題

ICT活用について  
ICT活用について  
ICT活用について

学生の皆さんへ伝えたいこと  
学生の皆さんへ伝えたいこと  
学生の皆さんへ伝えたいこと

② 建設業を担う若手技術者に望むこと … 講師：(株)日新土建 工事部長 大河内範男さん



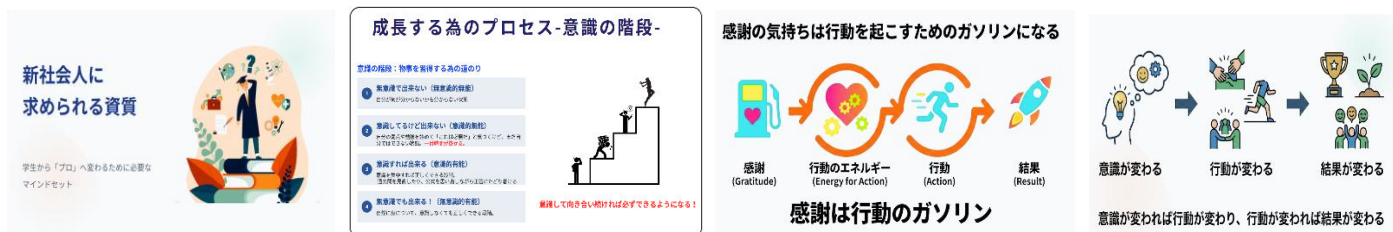
1. 自己紹介  
株式会社日新土建  
大河内 範男  
福島県立福島明成高等学校 環境土木科 卒業 (平成24年4月～令和8年3月)  
勤続年数は44年

3. 若手技術者に望むこと  
「向上心」と「精神面を鍛える」  
何か一つでもいいから、「〇〇ができます、得意です」ということがあれば将来が開ける。  
現在の建設業界は、「3次元化」の流れがある。  
CADがある程度使えれば、即戦力の第一歩になる。

4. 現場環境の改善に向けて  
選休2日制(年間休日は110日以上)  
時間外労働縮小(書類簡素化・バックヤードオフィス)  
女性に対する対応  
(トイレ環境・働き方など)

5. 学生の皆さんへ伝えたいこと  
工事のほとんどがインフラ職。工事中は第三者の方へ不快な思いや迷惑を掛けていることがあると思うが、完成すると生活が便利になる。  
多少の苦労や理屈の進め方を考え、完成した時の「達成感」がやりがい。  
何か一つでもいいので得意なものを身に付けてほしい。

③ 新社会人に求められる資質 … 講師：(株)日新土建 営業部主任 桃井良太さん



新社会人に求められる資質  
学生から「プロ」へ変わるために必要なマインドセット

成長する為のプロセス-意識の階段-  
意識の階段: 物事を理解する為の過程  
1. 理解する (理解の段階)  
2. 納得する (納得の段階)  
3. 実行する (実行の段階)  
4. 結果を出す (結果の段階)  
5. 感謝する (感謝の段階)

感謝の気持ちは行動を起こすためのガソリンになる  
感謝 (Gratitude) → 行動のエネルギー (Energy for Action) → 行動 (Action) → 結果 (Result)  
感謝は行動のガソリン

意識が変われば行動が変わり、行動が変われば結果が変わる  
意識が変わる → 行動が変わる → 結果が変わる

## 座談会（意見交換）

事前に行った就職意向調査の集計結果を基に、生徒が就職する上で特に興味・関心を持っている項目に対して、設業の現状をお伝えし、意見交換を行いました。

### Q1 休日について

A1 週休2日の会社が増えている。弊社の年間休日数は118日で来年度は120日を予定している。他に有給休暇があり、有給消化を強化している。

### Q2 男性の育児休暇について

A2 子供が産まれたら、自動で与えられるほど取得しやすい環境。期間は男性は最長3カ月。まとめて取得しても日数を分けて取得してもよい。

### Q3 資格取得の支援について

A3 当社は全額会社負担。

### Q4 仕事のやりがい

A4 山を削り道路を造ったり、トンネルを掘るなどの大きい規模の仕事が多く、地図に残るので達成感がある。また、地域の人々から感謝の言葉をもらえることがあるので、地域に貢献している実感がもてる。

### Q5 会社に入ってから的心構え

A5 基本的な挨拶や人の話を聞くことができること。

### <座談会の様子>



### <生徒からの感想>

- ・会社には、就職後も仕事についていけるよう相談をできる環境があると知り、安心感を覚えた。
- ・一昔前より休日数が増えていることや残業が少ない事など、土木業に対してのイメージが良い方向に変わってきていると感じた。また、入社してからも福利厚生の実施や待遇がよくなっていることから、建設業への進路を考えたいと思う。

### <大森科長講評>

座談会を通して、建設業に対するイメージが大きく変わった人も多いのではないか。昔と違って働き方が大きく変わってきている。数十年前までは建設業の年間休日数は80日ほどで、大変というイメージが強かった。しかし現在では、週休2日制度などで休みを取得できることが法律で決められており、働きやすい環境に変化している。是非、座談会の話が家族にも共有してほしい。親世代は昔の3Kのイメージが強いので、現在の建設業は働きやすく、待遇もよくなっていることを話してもらおうとイメージアップにつながり、中学生も福島明成高校の環境土木科を志望する生徒が増えるのではないかと期待している。

